

奥羽大学報



卒業証書・学位記授与式

目次

奥羽大学の理念・目的/平成29年度卒業証書・学位記授与式	2
平成29年度学位授与論文題名一覧	4
卒業記念贈呈式/歯学部謝恩会/薬学部謝恩会	5
無垢サロン/歯科医師国家試験/薬剤師国家試験	6
歯学部FD研修講演会/薬学部第2回FD研修講演会/第4回薬学部教育 研修・講演会	7
骨粗鬆症治療薬の服用による顎骨・骨髄炎の発症メカニズムの解明/ 深在性カンジダ症の病態モデル動物の開発/第65回国際歯科研究 学会日本部会	8
奥羽大 now	9
平成30年度大学院特別研修セミナー開催予定一覧/根津允大学院生の 論文が、東北矯正歯科学会学術論文賞を受賞/大学院生に対する研究 倫理教育の実施状況調査/薬図協地区協議会の総会	10
自著を語る/キャンパスの風景/附属病院	11
歯学部研究紹介/国際学会参加報告	12
薬学部研究紹介	13
父兄会	14
本学関係新聞記事案内(平成29年4月～30年3月)	15
同窓会だより/同窓生のひろば	16
退職によせて/人事	18
平成30(2018)年度 奥羽大学オープンキャンパス実施日程/ いきいき健康づくりフォーラム	19

奥羽大学の理念・目的

理 念

高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する。

目 的

奥羽大学は、教育基本法(昭和22年法律第25号)並びに学校教育法(昭和22年法律第26号)に基づき、広く知識を養うと共に、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を育成し、国民の福祉と文化の発展に寄与することとし各学部その目的は、次の各号のとおりとする。

1. 歯学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師を養成する
2. 薬学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな薬剤師を養成する

平成29年度卒業証書・学位記授与式

3月10日(土)午後1時より、本学記念講堂において平成29年度卒業証書・学位記授与式が挙行された。卒業証書および学位(歯学・薬学)を授与された者は、歯学部歯学科25名、薬学部薬学科87名、また、博士(歯学)の学位を授与された者は、大学院修了者9名であった。

式典は多数の来賓と父兄及び教職員参列のもと厳粛に進行され、来賓を代表して本法人影山英之理

事長(代読小林克男理事)の祝辞と、清野和夫学長の告辞があり、引き続き卒業生一同の代表として薬学部薬学科 吉田亜沙美さんから答辞が述べられた。

さらに、壇上において歯学部卒業生は大野敬歯学部長から、薬学部卒業生は衛藤雅昭薬学部長から、大学院修了者は清野和夫学長からそれぞれ一人ひとりに卒業証書並びに学位記が授与され、閉式となった。

祝 辞

理事長 影 山 英 之

卒業証書と学位記を手になれます皆さんと御臨席なされましたご父兄各位にとりまして本日は「無上の喜び、と拝察いたし心よりお祝いを申し上げます。本日はまことにおめでとうございます。

卒業されます皆さんにとって 今日までの長い間には多くのことごとを経験なされたことと思います。限られた時間では到底語り尽くせぬ程の数多の経験は「思い出」という一括りの言葉にとどまることはなく必ずや皆さんの人生に豊かな実りを齎す良質な肥料となってくれることを信じております。とりわけ最後の学生生活である本学で皆さんが「物事の本質を捉える大切さ」を学んで行ってくれば 私共にとってこれ以上の喜びはありません。

これから後 皆さんが常に良識と善意を備えそれぞれのよるべき職業を通して地域社会に貢献なされますことを希ってやみません。そして争いのない

明るい平和な世界の実現に寄与してくれることを望んでおります。

何事も一朝一夕に出来ることばかりではありませんが困難が全てではありません。今自分の前になすべきことがあればできぬ心配をするよりはできたときの喜びを心に描いてやってみる事です。失敗は成功の母 何度でも立ち直る努力を厭わなければ挫けることは恥にはなりません。

今日の仕事を明日に延ばさず今日の仕事としてやり遂げる事です。一日一日実行することです。それを繰り返し積み重ね続けていく先に更なる可能性が生まれ 目標は達成されます。皆さんは若い。精一杯頑張ってください。期待しております。

結びにあたり 卒業生の皆さんに喝采を贈ると共に御臨席の皆々様の御健勝を祈念致しまして私の祝辞といたします。

告 辞

学長 清野和夫

卒業式を迎えられたみなさん、ご卒業まことに
おめでとうございます。ご両親様をはじめご家族の
皆様には、今日の日を大きな喜びをもってお迎えに
なられたことと、心よりお祝いを申し上げます。

本日、ここに、学校法人晴川学舎理事長影山英
之様をはじめ、ご来賓の方々、卒業生のご両親様、
ご家族様のご臨席を賜り、平成29年度卒業式を
挙行できますことは、本学にとって最も大きな喜び
とするところでございます。

本学は、「高度な専門知識と技術を備えた人間
性豊かな人材の育成」を建学の理念に掲げ、1972
年、東北・北海道地域における唯一の歯科大学と
して設立され、1986年には大学院を、2005年には
福島県で初めての薬学部を開設いたしました。以来、
本日で歯学部は4162名、薬学部は789名の卒業生
を、大学院は365名の博士を世に送り出すことにな
りました。

卒業生の皆さんが本学で培った「豊かな人間性」
とは、言うなれば「思いやり」であります。論語に
孔子の有名な一節があります。「己の欲せざるところ、
人に施すことなかれ」。つまり、自分が望まない
ことは他人にしてはならないということです。言
いかえれば、「相手の身になって思い、語り、行動
すること」といえます。そのためには、相手が何を
欲しているかに気づいてあげることが求められま
す。この「気づき」は、心身ともに弱っている患者
さんと向き合う歯科医師、薬剤師が備えていなか
ればならない精神でもあります。本学で培った「豊
かな人間性」、「思いやり」の精神を生涯持ち続け、
これから待ち受ける医療の現場で思う存分に力を
発揮していただきたいと願っています。

皆さんが本学で学んでいた6年の間に、日本の
社会はいくつかの課題を抱えました。その一つに、
少子高齢化があります。日本人の年齢構成をみま
すと、65歳以上の高齢者が人口の約3割を占める
ようになった一方で、出生数が年間百万人を割り、
日本は世界のなかで類をみない少子高齢社会とな
りました。日本人の平均寿命は男女とも80歳以上
となり、心身ともに健康で生活できる期間、すなわ
ち健康寿命も73歳を超えて、世界一の健康長寿の
国となりました。このような社会にあって、人はど
のように活力をもって時代を生き抜いていくか、そ
ののための経済、社会はどうあるべきか、政府は「人

生百年時代構想会議」を設置し、社会のグランド
デザインを検討しはじめました。人生百歳時代が
現実味を帯びてきた感がいたします。卒業生のみ
なさんがこれから向き合う超長寿社会では、乳幼
児から高齢者に至るまでの人生の各ライフステー
ジに合わせた医療が今以上に求められ、歯科医師、
薬剤師は国民の健康長寿社会を支える中心的役割
を担うことになります。卒業生のみなさんには大き
な期待が寄せられていますので、先輩の方々と協
力して日本の健康長寿に貢献していただきたいと願
っています。

福島県にある本学において、震災と放射能の実
害、それに続く風評被害のなかでの6年間、皆さん
は懸命に努力して本日の卒業式を迎えたわけでご
ざいます。人生のなかで最も多感な青春時代を過
ごした郡山の街、奥羽大学のキャンパス、そして多
くの友との出会い、恩師の先生、お世話になった職
員、どれをとっても皆さんにとっては宝であり、一
生忘れ得ぬ思い出でもあります。

皆さんが卒業するに当たって、もう一つ忘れてな
らないことは、いつでも、どのようなときでも皆さん
を温かく見守って下さったご両親様の愛情です。
この6年間にご両親様からいただいたこの上ない
お力添えに対して、一生、感謝の気持ちを持ち続
けていただきたいと思います。

卒業するみなさんは、歯科医師あるいは薬剤師
として社会に巣立って行くことになりますが、実社
会においては自分ひとりの力だけで思いを成し遂げ
ることはできません。それには自分を取巻く多くの
人々と共に協力していくことが必要になります。社
会のルールを守り、思いやりの心をもって接すれば、
周囲の協力は得られることと思います。本学の建
学の理念である「豊かな人間性」を備えたみなさん
ですので、必ずや社会に溶け込み、それぞれの思
いを成就できることと確信しています。奥羽大学
の卒業生としての自覚と自信を持って今後の人生を
歩んでください。本学で学んだ高度な専門知識と
技術を基に地域医療に貢献し、患者さんから信頼
される歯科医師、薬剤師となって活躍されることを
願っています。

むすびに、皆様のご健康とご発展をご祈念申し
上げ告辞といたします。

答 辞

卒業生代表 薬学部 吉田 亜沙美

早春の暖かな陽の光が長い冬を連れ去り、芽吹きをもたらす今日この頃、私たちは、この学び舎から多岐にわたる未来への道を歩み始めます。

本日は、理事長先生をはじめ、学長先生、ご来賓の先生方、関係各位の皆様のご臨席のもと、このような盛大な式典を挙行していただいたことに、卒業生を代表して厚く御礼申し上げます。

振り返れば6年前、東日本大震災の傷が癒えない郡山で桜の季節を迎え、私たちは希望と不安を綯い交ぜにしながら、奥羽大学の門を潜りました。

想像を遥かに超えた自然災害は、多くの人々の人生を変え、当時、高校生であった私も、激動する情勢を目の当たりにしました。その中で、日常を支える「医療の重要性」を痛感し、それを担う人材となるべく、薬剤師を志しました。

しかし、「医療」という学問の修得には、幅広く深い知識、多角的な視点を要し、その道の険しさ、途方もなさに挫けそうになることも多々ありました。そのような私たちの心を払拭し、視野を広げる豊かな知識を受け、深い学びの世界へと教え導いてくださったのは、ここ

にいらつしやる先生方でありました。また、志を同じくする仲間たち、時に夢を語り合い、切磋琢磨してきた友がいてくれたからこそ、ここまで歩んでくることが出来ました。そして、復興、発展へ、一步また一步と着実に進んでいく郡山の姿は、私たちの挫けそうな心をそっと勇気づけてくれました。

先生方のご指導、仲間たちと過ごした時間、支えてくれた家族、地域など、多くの方々との出会いとお力添えにより、私たちは今日、この卒業の日を迎えることが出来ました。

私たちは、奥羽大学で培った知識と技術を確かな土台として、このキャンパスを巣立ちます。しかし、それはこれから先学んでいくことのほんの一部に他なりません。これより先は、私たち自身で積み上げ、道を切り拓いていかなければならないのです。卒業は、ゴールではなくスタートです。それを肝に銘じ、初心を忘れることなく、自己研鑽に励んでいく所存です。

「人に寄り添い、信頼される、豊かな人間性と優しさを備えた歯科医師、薬剤師」となるための第一歩を今踏み出します。

最後となりましたが、諸先生方やご来賓の皆様の一層のご健勝と、奥羽大学の益々のご発展を心より祈念いたしまして、答辞とさせていただきます。

平成29年度学位授与論文題名一覧

学位取得者	専攻・講座	論文題名
田中 克典	生体管理学	A Histological Study of Vasoconstrictive Effect by Epinephrine-containing Local Anesthetic in the Jaw Bone
作間 健彦	口腔機能回復学	印象材の硬度が作業用模型におけるアナログの変位に及ぼす影響—インプラント体レベル印象での検討—
岡 志央理	顎顔面口腔矯正学	Relationships between Nasal Cavity Function and Maxillofacial Morphology among Children with Malocclusion in the Growth and Development Stage
工藤香菜恵	生体管理学	Immunohistochemical Analysis of Nerve Fibers Distribution in Mandibular Bone of Rats
角田 隆太	顎口腔外科学	Concentrated Growth Factorsが骨代謝能に及ぼす影響
服部宗太郎	口腔感染症学	<i>Candida albicans</i> の定着に及ぼすサイトカインの影響—カンジダ血症のマウスモデル開発の試み—
東 春生	歯内・歯周療法学	ステップバック法におけるステンレススチールファイルの回転角度の効果
三宅 茉麻	口腔保健学	骨格性不正咬合と齲蝕リスクとの関連性について
根津 允	顎顔面口腔矯正学	機能的顎矯正装置で治療した上顎前突症例における口腔周囲筋の圧力変化—FR-IIとTwin Block applianceの治療効果—

卒業記念贈呈式

3月8日(木)、平成29年度卒業記念贈呈式が午後1時より学長室にて行われた。歯学部代表の林田明大さん、薬学部代表の石川隆寛さんから卒業記念としてそれぞれ10万円が贈呈され、清野和夫学長より、後輩及び大学のために大切にに使わせていただくとの謝辞があった。



歯学部贈呈式



薬学部贈呈式

歯学部謝恩会

3月10日(土)卒業証書・学位記授与式後、午後7時より郡山ビューホテルにて歯学部第41期謝恩会が開かれた。大野敬歯学部長、渡辺友彦同窓会長、及び西村郁夫父兄会長からの謝辞、また学年主任の山崎信也教授から卒業生へ贈る言葉をいただいた。

卒業生たちは恩師や学友、保護者と6年間の大学生活の感謝や思い出を和やかに語り合っていた。



薬学部謝恩会

3月10日(土)卒業証書・学位記授与式後、午後6時より郡山ビューホテルアネックスにおいて薬学部第10期卒業準備委員会の主催による謝恩会が開かれた。準備委員会委員長今橋良太さんの開会宣言、菅野淳一父兄会長の挨拶に続いて、衛藤雅昭薬学部長が、平昌冬季オリンピックにおける日本選手の活躍にたとして、初心を忘れず、信念をもって努力を怠らなければ、そんな自分を評価し育てて下さる良き指導者にもきつと巡り合え、一人ひとりが掛替えのない薬剤師になれると期待を述べられた。そして、6学年主任佐藤栄作教授が乾杯の音頭をとると、恩師や学友たちと和やかに語らい合っては、別れを惜しむ卒業生たちの光景が繰り広げられた。





クラブ活動のすすめ

歯学部 教授 東北歯科専門学校長 福井 和徳

文武両道という諺があります。文事・武事の両方に優れた人を警える言葉として古くから頻用されておりますが、語源は中国の周朝の始祖である文王と武王の政治から出来た熟語とされています。文事とは勉強だけでなく、絵画や華道、茶道や和歌といった文化的な事柄を表しており、武事はスポーツに置き換えて最近では使われていますね。江戸時代初期の陽明学者である中江藤樹は「武なき文、文なき武は共に真実の文ではなく、武でもない」と言われ、これは文事によって緻密な戦略を立て、その戦略に沿って武事を実践することが重要という解釈のようです。スポーツ盛んな男子校で中高一貫教育を受けた私は、文と武が密接な関係にある例えの「文武両道」は常日頃教員から言い聞かされた馴染み深い言葉となっておりました。当時、「文武両道」を達成しているのは僅かな学生でしたが、彼らは教員達が公認する「できる男」の象徴とされ、彼らに文武が近づけるようクラスメート同士で競い合った事を記憶しております。

私は本学歯学部の同窓であり、学生時代の6年間は勉強もしましたが、テニス部にもどっぷりはまっておりました。入部した動機は単純で、年に1回、長野県軽井沢のテニスコートを貸し切って全国歯学部の団体戦が行われる歯科学学生総合体育大会（通称：オールデンタル）に行けるというセレブ感からでした。入部の動機は別として、6年間のクラブ活動で得たものは、本学自慢の緑豊かな広大なキャンパスで繰り広げられた先輩・後輩・同級生・他校のテニス部員そして教員との濃厚な交流から、勉強やスポーツを競い合うだけでなく自身の文化面に対する幅広い素養が自然に育まれた事が挙げられます。

歯学部の長い学生生活では色々な壁が待ち受けております。その生活のなかでクラブ活動のメリットは、競争心から自身のメンタル面を強く変化・成長させる場が与えられ、その結果、困難に打ち勝つパワーが身に付くという事でしょう。最近では、オールデンタルで成績の良い大学は国家試験合格率も比例しているとのデータも公表されており、これは自身の緻密な学生生活の計画を立て、その計画に沿って勉強とスポーツを両立させる歯学部版の「文武両道」を表す事象であると受け取れます。今後も本学の学生達が有意義な学生生活を送れるよう、そして有為な歯科医師に育つためにも、クラブに入る事を勧めて行きたいと思っております。

歯科医師国家試験

2月3日(土)、4日(日)の2日間、宮城県仙台市ほかの会場において、第111回歯科医師国家試験が実施された。

3月19日(月)に厚生労働省及び各地方厚生局で合格者発表があった。本学からは111名が受験し、合格者は27名であった。そのうち新卒者は25名が受験し、合格者は9名であった。

薬剤師国家試験

2月24日(土)、25日(日)の両日、産業見本市会館サンフェスタ（宮城県仙台市）ほか会場にて第103回薬剤師国家試験が行われた。合格発表は3月27日(火)に厚生労働省のホームページ、各地方厚生局で行われた。

本学からは154名が受験し、合格者は57名であった。そのうち新卒者は87名が受験し、合格者は32名であった。

歯学部FD研修講演会

2月23日(金)17時40分から約2時間、歯学部全教員を対象にFD研修講演会が開催された。

研修内容は次のとおり。

○外部研修会・ワークショップ報告

「臨床実習後の客観的評価」

講師：山崎信也 教授、清野晃孝 准教授

「第8回歯科医学教育者WS」

講師：山田嘉重 准教授、川鍋 仁 講師

○教員相互授業参観実施報告

講師：福井和徳 教授

○平成30年度FD事業計画

講師：福井和徳 教授

薬学部第2回FD研修講演会

2月14日(水)に本学薬学部棟にて平成29年度第2回薬学部FD研修講演会が開催された。奈良教育大学の豊田弘司教授を講師にお招きし、「学生教育における効果的な評価方法」と題した講演が行われた。講演では評価の基準と時期による分類や評価の具体的な方法について説明があった。評価によって学生の個性を知り、それに合った教育をすること、また評価とは教員の教育方法の適切性を知ることでもあると言及され、大変有意義な講演であった。



第4回薬学部教育研修・講演会

第4回薬学部教育研修・講演会が12月20日(水)17:30～18:40、第2講義棟で開催された。講師は、東北大学大学院医学研究科緩和医療学分野の井上彰教授で、テーマは「がんの治療と緩和ケア」、がんと診断されてから緩和ケアが関与する事の重要性について具体的な例を提示し、大変分かりやすい講演内容であった。「がん」は日本人の死因の第1位となっている。がん治療は分子標的薬や免疫療法の進歩により、その治療成績は劇的に向上しているが、進行期の疾患が治癒に至る確率は未だに極めて低く、「病と上手く付き合って生きていく」ことが重要となっている。近年、緩和ケアの発達を受け、がんの診断初期から積極的治療と同時に行う症状緩和治療が行われるようになってきている。この講演で、がん治療の早期から緩和ケアが介入することでがん治療中のQOLが高く維持され、抑うつ発症の頻度も低く、有意に生存期間が延長するエビデンスを示された。最後に治療が困難な進行がんに対する目的は、がんの縮小ではなく、より良い状態をより長く維持する事であると話された。



(薬学部 教育研修・講演会委員長 井上忠夫)

骨粗鬆症治療薬の服用による顎骨骨髓炎の発症メカニズムの解明

超高齢社会に伴って、骨粗鬆症患者も増加している。骨粗鬆症治療薬を服用している患者が歯科治療を受けた後に、顎骨骨髓炎を起こすことが報告されており、医療訴訟になる場合もある。骨粗鬆症治療薬によって顎骨骨髓炎が起こるメカニズムの解明とその予防法の確立は、歯科医学における大きな課題である。

口腔病態解析制御学講座の玉井利代子准教授は、骨粗鬆症治療薬のアレンドロネートが炎症誘導因子を産生し、それが引き金となって細胞死が起こるメカニズムを分子レベルで解明した。その成果は、以下の国際的な学術雑誌に掲載された。

論文題名：Alendronate augments lipid A-induced IL-1 β release and
Smad3/NLRP3/ASC-dependent cell death.

掲載雑誌：Life Sciences 198巻 8頁～17頁 2018年2月

深在性カンジダ症の病態モデル動物の開発

悪性腫瘍患者や免疫不全患者に好発する深在性カンジダ症は死亡率も高く、効果的な治療法の開発が望まれている。

口腔病態解析制御学講座の小林美智代講師は、深在性カンジダ症の病態の一部をマウスで発症させることに成功した。このような病態モデル動物の開発は新たな治療方法の研究に大きく寄与するもので、以下の国際的な学術雑誌に掲載された。

論文題名：Gastrointestinal colonization and systemic spread of *Candida albicans* in mice treated with antibiotics and prednisolone.

掲載雑誌：Microbial Pathogenesis 117巻 191頁～199頁 2018年

第65回国際歯科研究学会日本部会

11月18日(土)～19日(日)、昭和大学にて、第65回国際歯科研究学会日本部会(JADR 2017)が上條竜太郎大会長のもとで開催された。テーマはForefront of Dental Science- Toward the Global Standard in Medical Science-で、ヘルシンキ大学Irma Thesleff教授による特別講演、The roles of conserved signaling pathways in tooth development and regenerationもあった。私は、Symposium I: Cutting-edge etiology of periodontitis: Next sights for host-parasite interactionの最後の演者として、Paradigm shift in periodontal disease development and treatment: periodontitis-associated fibroblasts (PAFs) as novel molecular targets? と題して発表した。講演時間はわずか30分であったが、歯周炎の原因が細菌だと勘違いされた理由、歯周炎創傷治癒仮説、HGF試験紙の試作、歯周炎関連線維芽細胞の発見、歯肉溝滲出液中のmiRNAによる歯周炎診断、抗HGF抗体を用いた新しい歯周炎治療の試みなど、これまでの研究成果を駆け足で紹介した。今回の発表はすべて英語で行われたため留学生にとっては質問もしやすく、各所で活発なディスカッションが行われていた。学会全体の演題数は183題、参加者は350名余りとかなりの盛況であった。また、日本の歯科大学(歯学部)には多くの留学生がいることを改めて感じた学会でもあった。

(薬学部 教授 大島光宏)

奥羽大 now

平田村との薬用植物栽培共同研究から 新しい六次化製品が誕生

一昨年夏に石川郡平田村と本学薬学部との間で薬用植物栽培共同研究協定が締結され、同時に「平田村薬用作物振興協議会（会長 平田村澤村和明村長、副会長 衛藤雅昭薬学部部長）が発足し、村内数か所の試験圃場でカンゾウ、ムラサキ及びオタネニンジン（オタネニンジン）の三種類の試験栽培が開始された。薬草栽培は一般の農作物と異なることから栽培管理などは薬学部の伊藤徳家准教授が村へ通いながら行ってきた。今回の試みは県内で初めての本格的な薬用作物栽培試験であり、土壌や気候条件などへの不安もあったが、栽培を進めながら条件を変更するなど柔軟に対応したことでおおむね順調に生育させることができた。昨年暮れにムラサキを収穫し、本年1月にはビニールハウスで栽培したカンゾウの収穫が実施された。カンゾウ収穫の様子は福島テレビ局が取材し、同局の夕方のニュース番組「みんなのニュース」で放映され反響を呼んだ。

平田村は漢方薬メーカーからの委託を受けて栽培するというこれまで多くの市町村で行われてきた方法ではなく、本学部と共同研究を進めることで新たな栽培法などを開発し、村内に

栽培ノウハウを蓄積しながら食品や化粧品などの独自製品を開発するという「六次化方式」を採用した。このような方式で薬用植物を栽培している自治体は全国的にも非常にまれで大いに注目を浴びている。

第一弾製品としてカンゾウとムラサキを配合した入浴剤を設定し、本学部が製品の安全性や安定性などの薬事的試験を支援することで、本年2月に薬用入浴剤「紫甘湯（しかんゆ）」（医薬部外品）が完成した。平田村の道の駅や本学内等で試用してもらい、既に多くの方から高評価を得ている。

平田村薬用作物振興協議会では平成30年度も作付面積を拡大し、早期に村内の農家での新たな栽培作物にしたいと考えており、本学薬学部も収穫物品質の安定化へ向けた栽培指導を継続していく。

（薬学部 准教授 伊藤徳家）



テレビで紹介されたカンゾウ栽培



共同開発した入浴剤

平成30年度大学院特別研修セミナー開催予定一覧

平成30年度の大学院特別研修セミナーは、以下のように5回開催されます。

	開催月日	講師（敬称略）	所属機関・職名
1	4月27日(金)	村中 璃子	京都大学大学院医学研究科・非常勤講師・ジャーナリスト
2	6月29日(金)	三苦 博	東京医科大学医学教育推進センター長・教授
3	7月20日(金)	近田 政博	神戸大学教育推進機構大学教育推進本部・副本部長・教授
4	10月26日(金)	大隅 典子	東北大学大学院医学系研究科 附属創生応用医学研究センター長・教授
5	未定	松井 健志	国立研究開発法人国立循環器病研究センター 医学倫理研究部・部長

根津允大学院生の論文が、 東北矯正歯科学会学術論文賞を受賞

大学院顎顔面口腔矯正学専攻の根津 允大学院生の論文が、東北矯正歯科学会の学術論文賞を受賞した。この賞は、歯科矯正学に関する優秀な論文が4年ごとに2編選ばれて授与されるものである。乳歯と永久歯が混在する混合歯列期という歯列矯正を考える上で、最も重要な時期の舌の位置を評価しており、臨床的にも非常に有意義な研究である。論文指導は、福井和徳教授が行った。論文題名：混合歯列期における不正咬合者の舌位に関する形態学的評価

掲載雑誌：東北矯正歯科学会雑誌

23巻3頁～10頁 2015年



福井和徳教授と根津允大学院生（右）

大学院生に対する研究倫理教育の 実施状況調査

本学では、文部科学省の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づいて研究倫理教育・研究不正防止の取り組みを毎年行っており、同省による書面調査も毎年実施されている。今年度はそれに加えて、日本学術振興会によるアンケート調査が2月に行われた。内容は、大学院生に対する研究倫理教育の実施状況の調査であった。本大学院で行っている特別研修セミナーとeラーニングコース受講の義務化、学位審査における誓約書の提出などの取り組みを報告した。

薬図協地区協議会の総会

日本薬学図書館協議会北海道・東北地区協議会総会は3月23日(金)、本学図書館長室において開催された。北海道薬科大学、北海道医療大学、日本薬学図書館協議会本部、幹事館である本学図書館などから関係者が出席した。協議事項では次年度の活動方針などが検討され、各図書館の最近の動向なども報告された。

自著を語る

『口腔保健・予防歯科学』

安井利一、廣瀬公治ほか 医歯薬出版 2017年2月

本書は、これまで医歯薬出版から発行されていた「新口腔保健学」と「新予防歯科学」を一体化させ、口腔保健分野におけるこれからの時代を見据えた出版物である。近年の歯科保健医療を取り巻く状況は目まぐるしく変化している。その中でも高齢者への対応は喫緊の課題であるが、これに対応できるよう地域包括ケアシステムやオーラルフレイルに関する記載が新たに盛り込まれている。また、歯周病と全身疾患との関連や、災害時の口腔保健について、最新の知見を取り入れながら詳細に解説されている。

日常の予習復習はもちろんのこと、CBTや国家試験対策、さらには地域歯科保健活動実践のための教科書・参考書として、本書を有効に活用していただきたいと願っている。（歯学部口腔衛生講座 教授 廣瀬公治）

キャンパスの
風景

氷瀑

落差5、6メートルはあるキャンパスの滝。厳冬になると両幅に氷の塊ができる。いわゆる氷瀑だ。

今年の冬は例年になく全国的に厳しい寒さが続いた。首都圏でも水道管破裂が続出した。奥羽大学そばの善宝池は1月下旬に全面凍結した。近年ではめずらしいことだと、散歩していた近隣のおばあさんが語っていた。

キャンパスの氷瀑は1月下旬から始まった。神秘的と言おうか、芸術的と言おうか、大自然が作り出す幻想風景だ。日ごとに氷の塊は膨れていく。ここ数年では最も大きな氷瀑となったようだ。

3月10日の卒業式翌日、高気圧の影響で気温が上がり、待っていたかのように、白い塊は春風に乗って飛び散った。ようやく長かった氷瀑の祭典は閉幕した。春の兆し、そだねー。（A）



附属病院

歯科医師臨床研修修了式

平成29年度臨床研修修了式が3月27日(水)に臨床講義室で行われた。

はじめに、山森徹雄研修管理委員長より研修歯科医30名一人ひとりに修了証が授与され、続いて杉田俊博病院長より日々の研鑽を継続するよう訓示があった。清野晃孝研修管理副委員長からは素直であること、謙虚であることそして貪欲であってほしいとはなむけがあり、熱いエールも送られた。修了証を手にした研修医は、それぞれの進路での活躍を誓い合っていた。



歯学部研究紹介

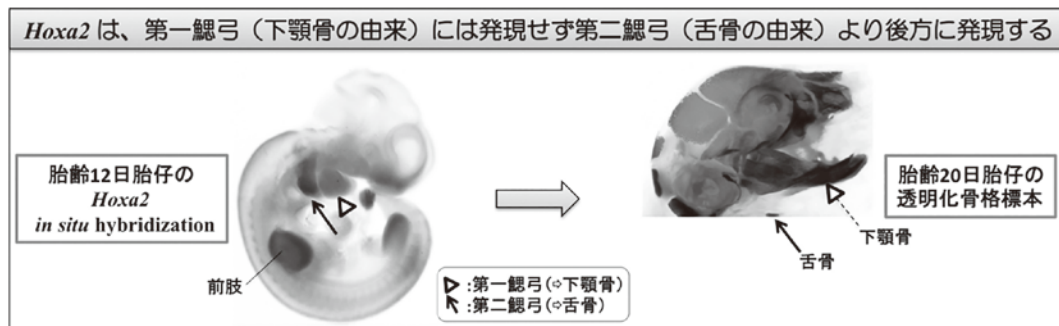
頭顔面の胎生期発生に寄与する因子のラット mRNA プローブ作製法の確立
—潜在的摂食・嚥下障害のリスク管理を目指して—

口腔病態解析制御学講座 准教授 鈴木 礼子

薬物による発生毒性試験には、実験動物としてラットが一般的に用いられている。しかしながら、その発生毒性試験の結果（奇形／変異）に寄与する分子メカニズムを解析するのは困難である。その理由の一つは、分子の局在部位を解析する定性的試験として欠かせない *in situ hybridization* 法に使用する mRNA プローブが、ラットでは、ほとんど作製されていないからである。そこで、私と共同研究者（今井 元准教授）は、頭顔面の胎生期発生に寄与する因子のラット mRNA プローブ作製法を確立することにした。

Hoxa2 は、第一鰓弓（＝下顎骨の由来）・第二鰓弓（＝舌骨の由来）が正常に発生するための鍵となる因子で、正常では、第一鰓弓には発現せず、第二鰓弓より後方で発現している。過去の論文から、Hoxa2 を第一鰓弓に異所性に発現させると、本来は下顎骨が形成される領域に舌骨が形成され、一方、発生時期特異的に Hoxa2 を一過性に不活性化すると、舌骨が形成されるべき領域に下顎骨が形成されることが知られている。今回、我々は、購入した Rat Hoxa2 cDNA クローンから、PCR 法と *in vitro* transcription 法を組み合わせる手法により、ジゴキシゲニン標識 Rat Hoxa2 mRNA プローブの作製に成功した（下図）。本プローブは、胎生期に受けた薬物の影響による頭顔面の発生異常の解析に貢献する事が期待される。特に、摂食・嚥下に関わる第一・第二鰓弓由来の構造物の発生異常に関するデータが蓄積されていけば、超高齢化社会における潜在的摂食・嚥下障害のリスク管理に貢献できる事が期待される。現在、本プローブを用いて、薬物による摂食・嚥下関連構造物の発生異常について解析中である。

なお、mRNA プローブ作製プロトコルの確立にあたっては、熊本隆之講師に、貴重な助言と技術提供を頂いた。



国際学会参加報告

3月22日(木)から25日(日)にかけて、アメリカ合衆国フロリダ州フォートローダーデール市にて、第47回アメリカ歯科研究学会（AADR）および第42回カナダ歯科研究学会（CADR）が開催され、発表を行って参りました。学会はアメリカ国内の大学を中心に、歯科における臨床、基礎問わず様々な演題が発表されておりました。

今回「A case of orthognathic surgery considering sleep disordered in breathing (SDB) in the patient with mandibular prognathism」というタイトルでポスター発表させていただきました。内容は、外科的矯正歯科治療を行った患者さんにて、術後の睡眠時呼吸障害の改善がみられたが、術後7日後には睡眠時呼吸状態の悪化が見られたことから、術後の精神不安定や睡眠障害の一因として、呼吸障害が示唆されたとの発表をさせていただきました。OSAに関するポスターはオハイオ州立大学等からは治療法に関する発表や OSAS 患者の気道計測を行った研究等があり、今後の研究に非常に有意義な学会でした。

（歯学部成長発育歯学講座 講師 細谷尚史）

薬学部研究紹介

低線量放射線による細胞傷害性の線量限度に関する研究

薬学部物理化学分野 准教授 志村 紀子

放射線のヒトへの障害（突然変異の誘導、悪性形質転換またはがんなど）のリスクは、低線量電離放射線照射の全ての線種について、しきい値なし直線（linear-no-threshold : LNT）モデルに基づいて評価されており、原子力労働者等に対する放射線防護の法的規制の根拠となっている。しかしながら、100mSv/year より低い線量あるいは、慢性的な被曝で少なくとも 200mSv/year より低い線量での LNT モデルを指示する科学的根拠となるデータはないとされている。LNT モデルは、低い線量で年間の被曝をした時の健康へのベネフィットについては説明されておらず、どのような線量についても害があるとの仮定は、低線量放射線に対する不当な恐怖感を助長するという考え方がある。ベネフィットの例として放射能泉である鳥取県の三朝温泉でのがん死亡率低下の疫学的調査がある。

私の研究は、低線量域被曝の細胞傷害性について検討し、その線量のリミットについて調べることを目的としている。そのため、HaCaT 細胞（ヒト表皮角化細胞株）とマウス B16 メラノーマ細胞（悪性黒色腫産生細胞株）を用い、 ^{90}Sr - ^{90}Y の実習用密封線源を培養シャーレにセットし、細胞接着面における線量が $50\mu\text{Sv/h}$ の主として β 線をそれぞれ $25 \sim 75\mu\text{Sv}$ の範囲で照射し、MTT 法により細胞の傷害の程度を調べた。その結果、照射直後の HaCaT 細胞において、 $50\mu\text{Sv}$ 以上で有意差はないものの傷害性の傾向が認められた。しかしながら、照射 1 日後に調べたところ、傷害性は全く認められなかった。このことから、低線量で照射した後 1 日経過すれば傷害性が回復したことが示唆される。一方メラノーマ細胞においては、傷害性は照射直後も 1 日後にも全く見られなかった。 $50\mu\text{Sv/h}$ は年間の値では 438mSv と計算されるが、上述の慢性被曝 200mSv/year より高い線量であり、この線量で細胞の種類によっては傷害性の傾向が見られ、その後回復することが示唆された。今後さらなる検討が必要である。

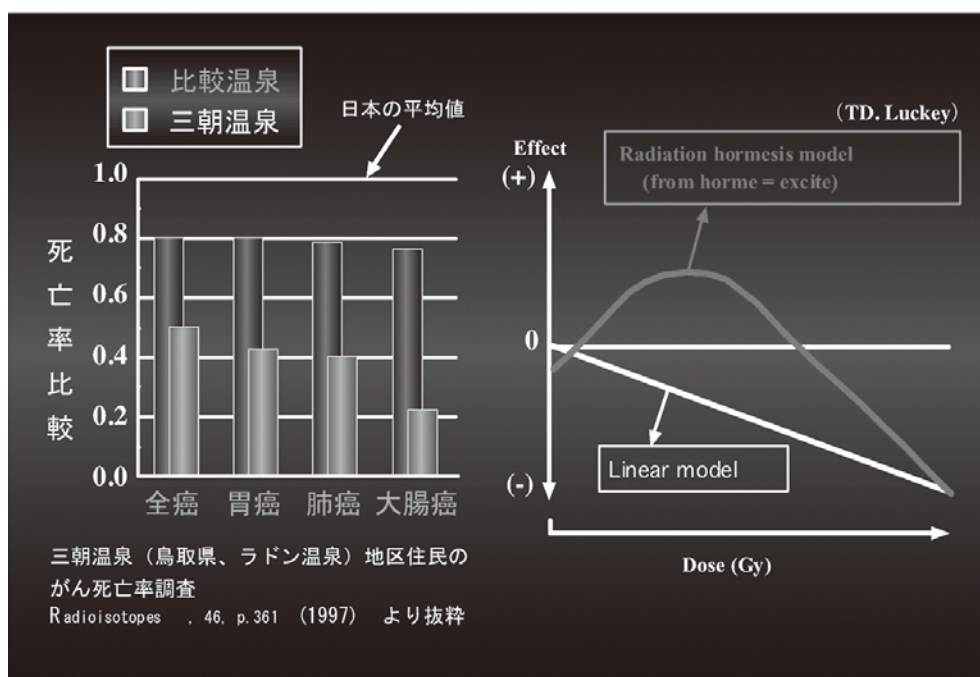


図 三朝温泉地区のがん死亡率調査 (左) と LNT モデルの概念図 (右)

父兄会

平成30年度歯学部・薬学部父兄会役員ならびに主な行事予定と予算については下記の通りである。

歯学部

「平成30年度役員」

歯学部父兄会

会 長	山崎 信也
副会長	渡邊 哲
監査役	(4月4日定時総会にて決定)

「主な行事予定」

定時総会	平成30年 4月 4日(水)
	平成30年 6月 9日(土)
	平成31年 3月10日(日)
共済基金委員会	平成30年 6月 9日(土)
	平成30年10月13日(土)
	平成31年 3月10日(日)
幹事会	平成30年 6月 9日(土)
	平成31年 3月10日(日)

地域会(全体会・個別懇談会)

平成30年 7月 1日(日)	大森東急REI
平成30年 7月 8日(日)	ハートンホテル北梅田

「予 算」

(収入の部) (単位:円)

科 目	本年度予算額
前 年 度 繰 越 金	17,470,268
入 会 金	780,000
会 費	10,000,000
地 域 会 参 加 費	275,000
雑 収 入	3,000
合 計	28,528,268

(支出の部) (単位:円)

科 目	本年度予算額
通 信 費	300,000
印 刷 費	250,000
会 議 費	1,100,000
消 耗 品 費	600,000
旅 費 交 通 費	1,300,000
慶 弔 費	150,000
雑 費	10,000
地 域 会 開 催 費	1,680,000
課 外 活 動 援 助 費	3,030,000
学 生 福 利 厚 生 費	2,308,000
奥羽大学歯学会協賛費	100,000
学 習 活 動 助 成 費	2,500,000
予 備 費	15,200,268
合 計	28,528,268

薬学部

「平成30年度役員」

薬学部父兄会

会 長	澁川 直久
副会長	佐々木 丈博
監査役	大和田 しのぶ

「主な行事予定」

定時総会	平成30年 4月 4日(水)
幹事会・定時総会・学年別懇談会	平成30年 5月25日(金)
保護者懇談会(4年・6年)	平成30年 8月 4日(土)
幹事会・定時総会	平成31年 3月10日(日)

「予 算」

(収入の部) (単位:円)

科 目	本年度予算額
前 年 度 繰 越 金	14,335,863
入 会 金	1,260,000
会 費	13,000,000
雑 収 入	1,000
合 計	28,596,863

(支出の部) (単位:円)

項 目	本年度予算額
通 信 費	200,000
印 刷 費	100,000
会 議 費	1,300,000
消 耗 品 費	50,000
旅 費 交 通 費	300,000
雑 費	160,000
課 外 活 動 援 助 費	850,000
学 生 福 利 厚 生 費	11,940,000
予 備 費	13,696,863
合 計	28,596,863

本学関係新聞記事案内(平成29年4月～30年3月)

(図書館調べ)

*日付は新聞掲載日です。記事のコピーファイルは図書館1階にあります。

- 平29. 4. 5 **奥羽大入学式** 優れた歯科医、薬剤師に (福島民報)
- 平29. 4. 5 **奥羽大入学式** 新たな学びへ一歩 代表「学業専念誓う」 (福島民友)
- 平29. 4. 8 「ふくしま人 **薬剤師 蒲生明** 第2回」(安藤勝) (福島民報)
- 平29. 4.15 「ふくしま人 **薬剤師 蒲生明** 第3回」(安藤勝) (福島民報)
- 平29. 4.18 **口の感染症に理解** 奥羽大同窓会 郡山で研修セミナー (福島民報)
- 平29. 4.22 「ふくしま人 **薬剤師 蒲生明** 第4回」(安藤勝) (福島民報)
- 平29. 4.29 「ふくしま人 **薬剤師 蒲生明** 第5回」(安藤勝) (福島民報)
- 平29. 5.30 **薬の経皮吸収を改良** 奥羽大 医療薬学 渡辺哲也講師
(知の現場29) (福島民友)
- 平29. 5.31 **一目で歯周炎診断** 大島教授(奥羽大)ら世界初技術
医療現場での活用期待 (福島民友)
- 平29. 6.29 **古田支部長を再任** 奥羽大歯学部同窓会県支部 (福島民友)
- 平29. 7.11 **口腔がん検診呼び掛け** 歯科医ら対象にシンポ 奥羽大付属病院で(福島民友)
- 平29. 7.13 **虫歯治療を模擬体験** 奥羽大で小・中学生講座 (福島民友)
- 平29. 7.21 **歯科医師、薬剤師体験を** 来月4日奥羽大で講座 (福島民報)
- 平29. 8.10 **小中学生 歯科医師さん体験** 奥羽大の2コースで講座 (福島民報)
- 平29. 8.19 **題材多彩に健康発進** 来月2日から公開講座 郡山の奥羽大
計4日間 歯や薬など (福島民報)
- 平29. 9. 4 **虫歯の予防解説** 奥羽大公開講座 (福島民友)
- 平29. 9. 5 **歯学、薬学の知識学ぼう** 奥羽大で公開講座始まる (福島民報)
- 平29.10.12 **地域づくりの力養う** 奥羽大の「郡山学・福島学」
民報社記者が講演 (福島民報)
- 平29.11.28 **歯学の最新知見講演** 奥羽大同窓会県支部 (福島民友)
- 平29.11.28 **骨の再生 乳酸に着眼** 奥羽大口腔生化学 前田豊信准教授
(知の現場41) (福島民友)
- 平29.12. 1 **臨床解剖で講演** 奥羽大歯学部同窓会県支部 (福島民報)
- 平29.12.12 **各企業 学生に仕事の内容紹介** 奥羽大でセミナー 薬学部5年生参加 (福島民報)
- 平29.12.27 **専門薬剤師養成** 治療現場をいち早く体験
奥羽大 がん薬物治療学研究室 (キャンパス通信3) (福島民報)
- 平29.12.28 **地域支える医療人を目指す** 奥羽大学 (全面広告) (福島民報)
- 平30. 3.17 **121人希望胸に学びや巣立つ** 郡山で奥羽大卒業式 (福島民報)
- 平30. 3.17 **歯科医、薬剤師へ第一歩** 奥羽大で卒業証書・学位記授与 (福島民友)
- 平30. 3.28 **好きな分野追求** 高度な歯科の全身麻酔学ぶ エレクティブスタディ
奥羽大図書館 豊富な種類24万冊(キャンパス通信6 奥羽大) (福島民報)

同窓会だより

新井田 進一(青森県支部 歯学部14期生)
村上寿宏青森県支部長の下で、会計を担当しております14期の新井田(八戸市)と申します。

会員数は52名で、年間の主な活動は、「学術講演会」「リクリエーション(ボウリング大会・ゴルフ大会)」「総会」「忘年会」などです。開催地は県内各地の先生方が参加し易いように青森市・弘前市・八戸市の3地区を持ち回りで開催しております。

昨年7月には総会終了後、本学の齋藤高弘先生のご講演を開催し、学内の近況報告と今後についてのお話が御座いました。優秀な学生が多く入学しているので今後に期待して欲しいとお言葉でした。

同窓会としても、現在会員の先生方や新入会員の先生方に期待される会の運営に取り組んでいる所です。本年度は2名の入会がありました。本県には未入会の先生が約10名いらっしゃるの、再度勧誘する予定です。

さて、昨年8月5日青森市に於いて「二期会IN青森」が全国各地から66名の先生方とご家族の方が参加され開催されました。ねぶた祭りに参加と見物、終了後のホテル青森にての懇親会。翌日は十和田湖方面の観光と青森カントリークラブでのゴルフと、お天気にも恵まれて最高の盛り上がりだったと聞いております。

私はゴルフに参加させて頂きましたが、二期会の「パワーと団結力(みんな仲良し)」には驚きました。開学当時の本学の学内の様子を想像した一日でした。(有難うございました。今後の同窓会活動に生かします)

さて、八戸歯科医師会では今後2件の大きな事業があります。2020年4月より現在建設中の「(仮称)八戸市総合保健センター」に支部会事務所を移転する事と、休日当番を持ち回りで実施していたものが、センター内に歯科診療室が設置される為、当日担当の先生が出向いて治療を行う事になる様です。

最後に、今後も同窓会活動に、微力ながら協力していきたいと思っております。

同窓生のひろば



酒井(旧姓 大槻) 里子
(文学部日本語日本文学科1期生)
同窓生の皆様こんにちは。いかがお過ごしでしょうか。私は文学部日本文学科1期生として奥羽大学に入学、卒業してから早

25年が経ちました。過ぎ去った時の長さに驚きますが、今でも大学時代のことが鮮明に思い出されます。大学報の同窓生の広場の中で、いまだに大学のテストに遅刻して、卒業できないと焦る夢を見る、と書かれていた方がいらっしゃいましたが、実は私も、卒論を完成できず卒業できない…という夢を見ては現実にはほっとする、ということがよくありました。楽しい思い出もたくさんあったのに、なぜこんな夢を見るのか、できれば楽しい夢を見て目覚めたいものです。

先日、大学図書館に用事があり、卒業後初めて大学を訪れました。当時と変わらない構内、大学の雰囲気に懐かしさが込み上げ、何とも言えない思いが胸に広がりました。当時軽食堂だったところを通ると、「あー、よくカレーや冷やし中華食べたなあ、おいしかったな」と、いつものメンバーとたわいない話をしながら、笑いあって食べていた姿が脳裏にうかびました。体育館も変わらず、サークルのメンバーはみんな元気かなあ、遠征で岩手に行った時楽しかったなあ、と、次々と眠っていた思い出も蘇りました。ついでに楽しい思い出だけでなく、悲しかったことや、ほろ苦い思い出も思い出しましたが…。大学時代は本当にいろいろな経験をしました。一人暮らしをし、バイトやサークル活動に明け暮れ、友達と夜通しおしゃべり、もちろん勉強も!ゼミ合宿の、先生方の熱い講義を受けたことは忘れられません。大学生でなければできない貴重な経験でした。

卒業後、私は高校教師を経て、大学時代のバイト先のアパレル企業に転職しました。自分の好きなことを仕事にしたいという思いからでした。仕事は辛いこともたくさんありましたが、やりがいも多く、とても楽しく打ち込みました。各地に転勤、海外在住も経験させていただきましたが、縁あって結婚を機に地元福島に戻り、現在は子育てをしながら幼児教育の塾講師として奮闘しております。自分が子を持つ親になってから、つくづく親のありがたみを実感しています。両親がいかに子育てを頑張っていたか、私を大事にしてくれていたか、今になってよくわ

かります。大学進学や就職、やりたいことをやらせてくれて、いつも私を応援してくれた両親に感謝です。両親のお陰で様々な経験をし、たくさんの出会いにも恵まれたと思います。

親としても幼児教育の講師としてもまだまだ半人前、試行錯誤の毎日です。しかし、教育分野に携わる者として、子どもたちの未来が明るく希望に満ちたものであってほしいと願い、微力ながら社会貢献できればと、これからも日々勉強、精進していきたいと思っています。

最後に、機会があったら、ぜひ大学を訪れてみてください。あっという間に大学時代に戻って新鮮な気持ちになりますよ！同窓生の皆様の益々のご活躍とご健康、ご多幸をお祈りしております。



藤井 伸明(歯学部19期生)

同窓の先生方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。本学を卒業し20年以上が過ぎました。卒業以来会っていない同期生の皆様はい

かがお過ごしでしょうか。

私は卒業後、埼玉県内で勤務医として働き、現在さいたま市内で開業して17年が経とうとしています。さいたま市は元々浦和・大宮・与野・岩槻の4市が合併してできており、市内には同窓の先生方が多く、いろいろとお世話になっています。埼玉県同窓会では三村支部長のもと、1期生から35期生までが学術講演、総会、新年会等で親交を深めています。

在学中はアーチェリー部とウインドサーフィン部に所属していました。両部の同窓生とは現在も交遊があり、ゴルフや飲みに行ったりと学生時代の付き合いが続いています。ウインドサーフィン部では年に1度猪苗代湖に卒業生と在校生が集まってバーベキューなどをしています。私はなかなか参加する事が出来ませんでしたが近いうちに参加したいと思っています。昨年9月にアーチェリー部の19期、20期が集まる機会があり、しばらくぶりに同級生や後輩と郡山で再会しました。

卒業以来の後輩もいましたが、自然に当時の飲み会となり楽しかった時間を思い出す事ができました。私が住んでいた大河原下宿と八山田の近辺は新しい道路・駅ができ、住宅や店舗が増えてすっかり変わってしまっていました。大学のグラウンドは無くなってしまいましたが、アーチェリー場は残っていて安心しました。

埼玉県から郡山までは新幹線で1時間ほどの距離なのですが、郡山に着いて震災の爪跡がいまだに

所々に残っているのを実際に自分の目で見てその被害の大きさを実感しました。最近の異常気象や世界情勢と同じように歯科業界も先行き不安な状態ではありますが、これからも地域の医療に貢献し、同窓の先生方と末長い交流を続けていきたいと思っています。年齢も50歳が近づき少しずつ体がガタが出てきましたが、同期生の皆様も健康に気を付けて元気な姿で再会できる事を楽しみにしています。



佐藤 清隆(薬学部2期生)

薬学部第2期生の佐藤です。

同窓生の皆様お元気でしょうか。奥羽大学を卒業し6年が経とうとしており、年齢も三十を迎え、体力の衰えを痛烈に感じておりま

す。奥羽大学報(No.154)を見たところ、人生で初めて骨折をした同窓生もいるようです。気をつけましょう。

さて、近況について寄稿して欲しいとの依頼があり、何について書こうか迷っているところですが3月に入り、私が住んでいる秋田では厳しかった雪も解け始め、木々が一斉に春の装いをこらし、命あるものすべてが勢いよく活動を開始しようとしています。

私はと言いますと「春眠暁を覚えず」とありますとおり、つい朝寝坊を重ねてしまう今日この頃です。

私は卒業後、秋田県庁に入庁し、県内の保健所や分析機関を経験し、現在は保健所の食品衛生行政の分野で業務をしています。昨年、日本では腸管出血性大腸菌やアニサキスによる食中毒のニュースが報道され、食の安心安全が注目されました。消費者に食の安心安全を届けることは国や自治体の大きな役割であり、食品衛生監視員の資格が与えられる薬剤師が活躍できる場と感じております。

行政薬剤師の業務は幅広く、食品衛生、環境衛生、薬事行政等様々な分野があります。

しかしながら、上記の分野で薬剤師が活躍していることを知らない方が多数だと思います。

行政薬剤師の業務は住民の生活に直結する重要な業務であり、医師、獣医師等、様々な職種の方々と仕事をすることで広い視野を持つことができます。在校生や卒業生の皆様、行政も薬剤師の就職場所の一つとして検討してみたいかがでしょうか。

広報活動のようになってしまいましたが職種や分野は違えど、薬剤師の責務「国民の健康な生活を確保する」に違いはありません。同窓生の皆様が各分野で責務を果たされ、さらなるご活躍されることを心よりお祈り申し上げます。

退職によせて



薬学部

教授 山岸 文洋

在職8年にわたりお世話になりました方々に心より感謝申し上げます。教育・研究・委員会活動を通して教員、職員、学生の皆さん

と接し、視野を広め多くのことを学ぶことが出来ました。特に、低学年時の教育へ真摯に取り組むことの大切さを実感しました。今年度は4年次学年主任を拝命し、共用試験、薬剤師国家試験の合格を目指し総合薬学演習Iの講義設定に関与させていただいたことは、大きな経験となりました。最後になりましたが、本学の益々のご発展を祈念致します。



薬学部

教授 野島 浩史

定年により本学での教員生活を終えるにあたり、まず、皆様方に変えお世話になったこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

薬学部開設時に着任して以来の約13年間にわたり、数多くの薬剤師を誕生させる手伝いができたことに、今は安堵感をもっています。退職するといっても、ひとつのリセットの機会にすぎません。リセットといえば、着任時は薬理学や疾患薬理学などの科目を担当していましたが、途中から機能形態学や臨床生理学の担当に変わりました。また、震災時には、動物舎で苦勞して作製した病態モデルマウスの飼育が困難になり、後日一からやり直すことになりました。その他にも、多くのリセットの機会がありました。次を楽しみにしているところです。



薬学部

教授 上野 明道

薬学部開設時に着任して、あっという間に13年が経ち3月31日で退職することになりました。寒暖の差が激しい先週末まで学生さんと

一緒に楽しくプロットングをしていました。卒業生からも実験や論文解説を経験したことで、国試や模試問題の理解が容易だったこと、考え方や計画性に進歩がみられたこと等、多くの肯定的な意見を頂戴しました。まさに「百聞不如一見、百見不如一考、百考不如一行」です。配属学生の皆さんを中心に「単なる調剤師」ではなく、「科学のある薬剤師」になって貰えるよう幾ばくかのお手伝いができたと思えば、これ以上の喜びはありません。奥羽大学の皆様方に心より感謝申し上げます。

人 事

<定 年>

小 谷 政 晴	教 授	薬 学 部	1月 4日付
野 島 浩 史	教 授	薬 学 部	3月 2日付
花 岡 洋 一	同	歯 学 部 (生体構造学)	3月31日付
結 城 昌 子	講 師	同 (口腔衛生学)	同

<退 職>

山 岸 文 洋	教 授	薬 学 部	3月31日付
高 橋 則 男	同	同	同
上 野 明 道	同	同	同
和 田 重 雄	准 教 授	同	同
多 根 井 重 晴	同	同	同
齊 藤 博	同	歯 学 部 (生体構造学)	同
秋 山 哲 夫	同	同 (生体材料学)	同
菅 野 勝 也	講 師	同 (口腔外科学)	同
佐 藤 直 生	同	同 (成長発育歯学)	同
海 老 澤 聡 一	同	同 (同)	同
渡 辺 敦	同	同 (同)	同
高 橋 範 之	助 教	附 属 病 院	同
川 西 章	同	同	同
羽 島 智 也	同	同	同
宗 像 佑 弥	同	同	同
浅 倉 彬 人	同	同	同
早 乙 女 大 地	同	同	同
鈴 木 佑 太	同	同	同
安 部 将 太	同	同	同
須 田 修 二	同	同	同
小 汲 祐 美 子	同	同	同
國 分 美 保 子	看 護 師	同	平成29年12月31日付
鈴 木 由 美 子	同	同	1月29日付
降 矢 香 奈 子	同	病 院 医 療 部	3月31日付
瀧 木 昌 子	同	同	同
溝 井 千 尋	歯 科 衛 生 士	同	同
小 倉 佑 李 奈	同	同	同
大 河 原 四 郎	技 術 職 員	総 務 部	同

<再雇用>

鈴 木 由 美 子	看 護 師	病 院 医 療 部	2月 1日付
-----------	-------	-----------	--------

平成30(2018)年度 奥羽大学オープンキャンパス・体験講座等実施概要

開催日	時間	内容
6月9日(土)	13:00～16:00	オープンキャンパス ※奥羽祭同時開催 個別進学相談会
7月14日(土)	10:00～13:00	オリエンテーション、学部紹介・入試説明、ミニ講義、休憩、 キャンパス見学、実習体験、個別相談・学食体験 等
8月8日(木)	10:00～13:00	オリエンテーション、構内見学・移動、 歯科医師・薬剤師体験講座、学食体験 等
8月9日(木)	10:00～13:00	学食体験、オリエンテーション、学部紹介・入試説明、ミニ講義、 休憩、キャンパス見学、実習体験、個別相談 等
8月10日(金)	10:00～13:00	学食体験、オリエンテーション、学部紹介・入試説明、ミニ講義、 休憩、キャンパス見学、実習体験、個別相談 等
9月1日(土)	10:00～13:00	オリエンテーション、学部紹介・入試説明、ミニ講義、休憩、 キャンパス見学、実習体験、個別相談・学食体験 等
10月6日(土)	10:00～13:00	オリエンテーション、学部紹介・入試説明、ミニ講義、休憩、 キャンパス見学、実習体験、個別相談・学食体験 等
2019年 3月25日(日)	10:00～13:00	学食体験、オリエンテーション、学部紹介・入試説明、ミニ講義、 休憩、キャンパス見学、実習体験、個別相談 等

※本学ホームページ又は電話等にて事前申込み要

いきいき健康づくりフォーラム

3月4日(日)、ビッグパレットふくしま(郡山市)にて福島県立医科大学健康増進センター主催で開催された「いきいき健康づくりフォーラム」に本学歯学部が参加し、ブースを出展した。

歯学部ブースには200名ほどの地域一般市民の方々が来場された。

■内容

(1) 歯科医師体験ブース出展

- ① 噛む力を測ってみよう(口腔衛生学スタッフ)
- ② 口腔乾燥度を測ってみよう(地域医療支援スタッフ)
- ③ ストレスチェック(地域医療支援スタッフ)

(2) 進学相談コーナー (企画・広報担当スタッフ)

(3) 大学関係資料配布会



奥羽大学報157号(通算No.282)平成30年3月30日発行

発行 奥 羽 大 学
学 報 編 集 委 員 会
委 員 長 清 野 和 夫

☎963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1

電話 024 (932) 8931(代) FAX 024 (933) 7372

ホームページアドレス <http://www.ohu-u.ac.jp>

メー ル ア ド レ ス info@ohu-u.ac.jp

※「奥羽大学報」送付先変更の方は、FAXまたはメールでご一報をお願いします。



私たちは、
医療人。

将来「医療」という分野の職業で生きてゆく、
たやすい気持ちで決められるような道ではない。
でも、一度きりの人生、生涯持れる自分になりたい。
決めるまでが半分、あとはやるだけ。
そう、未来はもう、始まっている。

Innovative Future

奥羽大学



歯学部



薬学部

最大6年間
学費
フルサポート

自力進学支援型

特待生募集！

歯学部30名 薬学部30名

(お問い合わせ先 企画・広報部) 〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1
TEL: 024-932-9055 FAX: 024-933-7372 E-mail: info@ohu-u.ac.jp

www.ohu-u.ac.jp